

Densho Bato

でんしょ鳩



公益社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会
〒804-0067
北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階
北九州市立東部障害者福祉会館内
TEL 093-882-6770 FAX 882-6771
E-mail:XL202133@nifty.ne.jp
URL:https://ksvk.jp/
◇郵便局振替口座/福岡 01740-4-8846
◇福岡銀行 戸畑支店 普通口座/2130527
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

◆障害のある人と地域がつながるためにわたしたちができること 2~3P

北九州市障害福祉ボランティア協会 理事 村山 浩一郎
副理事長 古賀 由美子

◇オータムスクール(長期休暇対策事業)で2年ぶりの「おもほり」 4P

北九州市障害福祉ボランティア協会
コーディネーター 船寄 靖子

◆「国際車いすバスケットボール大会」ボランティア活動に参加して 7P

ボランティアリーダー 柳 凡美

◇MYフレンド 6P

好きな言葉は「Dare(勇気)、Care(世話)、Share(共有)」
イタリアの詩人の言葉です

小畑 俊美さん・小畑 秀子さん

◆「We LOVE なおみ姫」 岩井 菜穂美さんを偲んで 7P

◇お知らせいろいろ 8P

座標軸

最近、政府が発表する政策が不評、首相の影響力が失われているとしてネットでは「レームダック(Lame duck)」という言葉で揶揄されています。

政治のことを批評するのではなく、この言葉そのものに違和感がありましたので話題にしてみました。レームダックとは「役に立たない、足の悪いアヒル」だそうです。アメリカで使われるスラング(俗語、卑語、隠語)のようで、一言で誰もがピンとくる言葉だそうです。

しかし、私が過剰に反応しているのかも知れませんが、こんな言葉で言い表すものなのかと思います。ヨチヨチ歩きのアヒルが足を悪くして歩けない姿が役立つと決めつけるのは、人々が理解できる言葉でも、理解できるのは人々の意識の中にそう思わせることが共有されているからではないでしょうか。

この日本でも言い伝えられている言葉が多くあります。

口からポロリと出て来る言葉がこれから先には死語になっていくことを願いたいものです。

(K・O)

障害のある人と 地域がつながるために わたしたちができること

ボラ協では、障害のある人が地域の一員として参加できる地域社会のあり方を関係者の皆さんと話し合ってきたが、今回その思いを受けて、戸畑区の沢見市民センターと沢見まちづくり協議会の共催で三回に亘っての福祉講演会・人権市民講座が開催されました。

ボラ協はこの事業の企画内容を持ち込むという形で協働させていただきました。具体的な事業担当は、沢見地区在住の二人の理事、村山理事(福岡県立大学教授)と古賀副理事長でした。

参加者はコンスタントに30名以上で、その内訳の多くは、まちづくり協議会や地区社協の役員、民生委員や福祉協力員といった地域福祉を推進している人。また市民センターの職員やセンターのクラブ活動者もおられました。そのような中でも毎回4〜5名の地域住民も参加され、グループミーティングでは皆さんが活発に意見交換をされていました。

障害のある人と 地域社会の関係について その現状と課題

第一回目では、地域の中で隣人として生活しているはずの障害のある人が「見えにくい」「あるは「見えにくい」という現実があること。実際に社会的なつながりの一般的な傾向としては、家族と専門職に偏在しがちで、地域とのつながりが弱く「地域からの

開催日	テーマ	参加
9月30日	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある人と地域社会の関係について ～その現状と課題～ 障害のある人の社会参加と合理的配慮 	34名
10月28日	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある人の地域に対する思いを聞こう ～視覚障害当事者&障害のある人の家族～ 障害のある人にとっての地域とは 	38名
11月25日	<ul style="list-style-type: none"> 「沢見」の現状を踏まえ、地域でできることを具体的なケースを通して考えよう 	33名

孤立」状態になっていること、そのため孤立を防止し、地域における「共生」を目指すことが国の方針としても示されていることなどを、地域福祉分野の学識経験者としての村山理事がグラフなどを使って説明しました。

また、村山理事は今回のこの講座のねらいを次のように説明しました。

①「ともに」考える場に

障害のある人や家族と地域とのつながりをどう作っていったら良いのか、そのた

めに、地域ができることは何か、そして、この講座を主催している市民センター！まちづくり協議会ができることは何かをグループミーティングを交えながら「ともに」考えていくという進め方で、一方的な「講師の話を聴く」という形態はとらないということ

② 障害のある人の「思い」を理解する

「障害」を理解することは大切なことだが、この講座では地域住民である障害のある人やその家族の「思い」や「生きづらさ」を理解しようということ

③ 誰もが住みよい地域のあり方を求めて

障害のある人と地域とのつながりを考えることは多様な人々が参加できるように「これからの地域のあり方」を考えることにつながるということ

障害のある人にとっての

地域とは

第二回目では障害のある当事者として視覚障害者友好協会の高橋朱美さんと、当事者の家族の立場で自閉症協会の天津泰子さんのお二人に体験談や地域への「思い」を語っていただき率直な意見交換をしました。



当事者側からは、障害があることを「顔の見える範囲」の近隣の人たちを知って

もらうことは大きな支援になるということや「できること」と「できないこと」を近

隣の人たちにわかりやすく伝えて、関係づくりを行っているという話がありました。

また、受講者からの「地域で障害のある方を見かけたら、どう声をかけたらいいのか」という質問に対しては、まず、自己紹介をした方が良いという実践的なアドバイスもありました。

「地域と関わりとうとする積極的な思いが伝わった」「元気をもらった」という声や「安心して自分の障害のことを話せる場が地域に必要」といった意見が出されました。

事例検討を通して、地域でできることを考える

最終の第三回目では、障害のある人の具体的な事例を提示し、この人が自分の隣近所に住んでいるとした

らどのようなことができたかをみんなで考えました。

たとえば、自治委員の順番が来た時にどうするのかとか、地域のイベントに誘いたいけど声掛けをしたらいいだろう、などを想定して意見交換をしました。

受講者の方々からは「障害のある人たちから何か発信があれば、また、思いを聞くことができれば、地域側からもっと積極的に関わることもできるのに」と言った意見が出され、そのためのきっかけや場づくりをどうしたらよいかについて話し合われました。

地域で活動をはじめている「おたすけ隊」が障害のある人と関わるきっかけになるのではないかと、回覧板を回す範囲で障害のある人がいる世帯と近隣世帯とが交流し「信頼関係をつくっていくことが大事」といった様々な意見、アイデアが出されました。

講座を終えて

今回の講座は三回シリーズであったにも関わらず、沢見校区の皆さんには積極的にご参加いただき、改めて沢見校区の活動の活発さを実感しました。もちろん、二つの結論が出たわけではありませんが、講座で話し合ったことを沢見校区での実践につなげていきたいと思っております。

そして、講座を通じて、障害のある人と地域の人たちとの対話の場をつくっていくことが大切だと改めて感じました。こうした対話の場は、多くの気づきを共有でき、新たなつながりをつくるきっかけになるだろうと思います。当事者と地域をつなぎ、両者の対話の場をつくっていくことが本協会の重要な役割ではないかと思われました。(村山浩二郎)



「障害者に対応する心掛けのアドバイスがとても参考になった」「相手の気持ちを汲み取りながら、お付き合い、助け合いができれば、お互いに積極的に勇気を出して声掛けから」「双方の信頼関係がまず大事」等のアンケートの声に、まずは第一歩としての成果はあったのかなと感じます。

関係性づくりには時間がかかることは私自身の体験からも思うところです。それでもこの講座を通して更に地域の皆さんと顔が見える関係性を深めることができ、声をかけていただく機会が増え、お喋りをしながらイベントのお手伝いをしたりと少しずつ地域の仲間にさせていたただいていきます。

こんな出会いづくりを自分の地域でもやってみたい方、一緒に始めませんか？ (古賀由美子)

オータムスクール(長期休暇対策事業)で 2年ぶりの「おいもほり」

コーディネーター 船寄 靖子

ボラ協が屋外での活動を
する場合に、まず気になるの
は天候や気温とトイレの問
題です。11月4日(土)くも
り空の肌寒い日、若松の畑で
芋ほりを開催しました。

長期休暇対策事業は北九
州市から委託を受けている
事業で、市内の特別支援学
校8校に通っている小学部か
ら高等部までの児童生徒の
皆さんとご家族は誰で
も参加できます。

当日は11家族39名の参加
者とボランティアグループの
N・C・Vから4名、和彊クラ
ブから4名、またボラ協から
3名と全部で11名のボランテ
ィアと畑のオーナーさんにご
協力いただき活動をしまし
た。

2部制10組ずつの受け入
れを予定し、応募多数の場
合は抽選としていたため、参

加するご家族に正確な住所
地のご連絡と分かりにくい
曲がり角に赤いジャンパーを
着たボランティアが案内板を
持ち誘導役として立っている
ことを連絡しました。

畑には簡易式のトイレし
かないことを募集チラシには明記
していましたが、車いすユーザ
ーのAさんご家族に、使い辛いト
イレしかないことを改めて伝え
る時には少し緊張しました。



芋ほりを楽しんでいた子、「食
べることには興味がないので私
が一人で食べるかも…」と笑って
いたお母さん、兄弟で芋を探し
ている子、畑の畦を走り普段は
あまり感じられない土の感触を
楽しんでいる子もいました。

今回、芋ほりを体験された
車いすユーザーのAさんご家
族に少しお話を伺いました。

「芋ほりに参加しようと思っ
た理由を教えてくださいー」

参加したのは家から近かつ
たのが一番の理由ですが、「子
どもと畑へ行こう!」ついでに
ですよ。車いすの子もきよ
うだいいもどちらも楽しめ
そうだったのが決め手です。

畑のすぐ横に車が停めら
れて良かったです。誘導のボ
ランティアさんも多くて迷い
ませんでした。

「もっとこんな工夫があれ
ば参加しやすかったのに」

「料金が決まっている方が参
加しやすいかな?」と思いまし
た。でも収穫体験だと(量り
売りなので)難しいですね。

ボランティアさんがブル
ーシートをさつと敷いて、
一緒になって芋を探して、
みんなでわいわいする感
じが楽しかつ
たです。



また、このような企画があれ
ば参加したいなと思いました。

「ボランティアからは」

車いすの参加者が居るな
ら、畑の畦に板を置くなどブ
ルーシート以外にも『なにか
工夫』ができたのではないか、
きょうだいいと遊ぶボランテ
ィアが居ても良かったね?と
意見をもらいました。

「芋ほりを終えて」

掘ったさつつま芋で12月にお
菓子教室を企画していま
す。収穫したその場で何か
体験できることはないか?何
か所か畑と交流しながら考
えたいと思います。

皆さんには市内の様々な
場所からご参加いただくの
で、少しでも自宅から近い
畑、体験内容から、行きた
くなる畑など、参加者が選択
できるような「ボラ協ならで
は」の付加価値を模索しなが
ら次年度に向け、障害のある
お子さんは勿論、参加した人
たちみんなが笑顔になれる
様に考えていきたいです。

広告



SKC 会計グループ 税理士法人 SKC

税務代理業務 ・ 税務相談業務

グループ会社

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL. 093-482-5588 / FAX. 093-482-5566
http://www.sakaikaei.co.jp/

株式会社さかい経営センター 株式会社北九州経理代行センター
一般社団法人 相続・贈与相談センター北九州

国際車いすバスケットボール大会 ボランティアに参加して

ボランティアリーダー 柳 凡美

私の初めてのボランティア活動は、北九州市での「世界体操・新体操大会」でした。日本選手、海外選手、そして全国からのボランティアの皆さんとのたくさん楽しい時間をすごしました。そのためか大会後にはボランティアアロス。そんな時、目に飛び込んで来たのが市政だよりにあった『国際車いすバスケットボール大会ボランティア募集』でした。申込期前にもかかわらず電話で申し込みをしてみました。



今年には会場運営班の実行委員として準備段階から参加させていただきました。

そんな中、ボランティアの一人が、「困っている方にどうお声掛けしたらいいのかと思っている間に、通りすぎて行かれた事を後悔しています。次回は勇気を出して声をかけたい」との発言がありました。私も初めての時はそうでした。でも今では、「何かお手伝いしましょうか?」とためらわずに声掛けすることができるようになりました。

東京パラリンピックで感動したパラスポーツ。そのボランティア：これはやるしかない!それに鳥海選手、藤本選手、香西選手に会えるかもしれない!と車いすバスケットのわかファンの想いいっぱい。体操・新体操とはまた違

このボランティアに参加して日常生活の中でも障害の有無に関係なく周りの方に思いを馳せる、そんな心づもりで過ごすようになりました。

この国際車いすバスケットボール大会は今年20回目の開催とのことですが、どれだけの北九州市民が周知していたのでしょうか。



残念ながら私の周りでは、ほぼゼロでした。こんな素晴らしい大会、知らないのは勿体ない。ボランティアに参加した私たちが一人の市民に伝えることも広がっていくのではないのでしょうか?

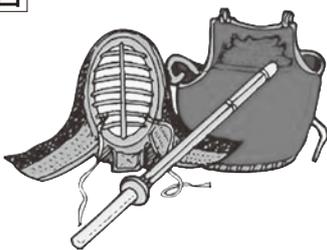


ボランティアに参加した皆さん!笑顔で楽しく、感動した時間を北九州市民の皆さんに伝えましょう。

「皆さん!国際車いすバスケットボール大会、見に来てください!私たちボランティアは笑顔でお待ちしています」と...

最後になりましたが、先輩ボランティアの皆さんの『優しさ・面白さ・笑顔』のお陰で私自身最後まで頑張ることができました。楽しい素晴らしい時間をありがとうございました。

広告



有限会社 塚本武道具
代表取締役

福本 康二

802-0084 北九州市小倉北区香春口1丁目11-20
TEL 093-941-8720 FAX 093-941-0020



今回は様々なボランティア活動をしていてボラ協でも活躍中のボランティアグループ「N・C・V」の代表小畑俊美さん、

秀子さんご夫妻をご紹介します。

—今年度所属団体が—

受賞されたそうですねー

三回受賞されました。九月に市の高齢者福祉功労賞、十月に市社協の福祉功労賞と県のボランティア功労者への県知事感謝状をいただきました。

—所属団体は—

穴生学舎のボランティアグループで「N・C・V」(New Community Volunteer)です。元々は「C・L・V」(Community Leader Volunteer)というグループだったのですが、リーダーが高齢となり解散することになったので、引き継ぐ形でニューという意味でNを付けて新たに立ち上げました。

—きっかけは—

二〇二〇年妻が市政だよりで穴生学舎の募集を見つけ受講することになり、私自身も十五ある講座の中の英会話コースに申し込みをしました。

同じコースの受講生から誘われて妻と一緒に「C・L・V」に入りました。

—活動内容は—

北九州市主催のイベント、北九州マラソンやごみ

ゼロの金山川の清掃活動。障害福祉関係は百瀬ミュージックボランティアのワンコインコンサート、ボラ協

では国際車いすバスケットボール等、JICA研修員との交流会等です。

—会員は—

今十九名です。穴生学舎以外の人も受け入れています。平均年齢は七十四歳。来年度は数名入会希望者がいて、少し若返るかもしれません

好きな言葉(イタリアの詩人の言葉) Dare(勇気)、Care(世話)、Share(共有)



インパークの電気設備管理部門に十二年間勤務しました。妻は金融関係の仕事に三十五年間従事。同じ頃

—障害のある人とかかわりは—

ボラ協の活動を通して初めて接したので、最初はコミュニケーションの取り方とか、実際にやってみないとわかりませんでした。ワンコインコンサートで、

ん。何かやりたいという気持ちを持っている人はけっこう多く、その人たちの活動のきっかけになればと思っています。

視覚に障害のある人をトイレに誘導した時、「ありがとう」と言われて感動しました。

—ボランティア活動で大切にしていることは—

活動が負担にならないように、できることに無理せず取り組むこと。一人でできないことでもみんなできたり遂げる達成感を持つこと。一緒に楽しんで成長することです。

—今後は—

今までもですが、これからも妻の支えや協力で一緒に活動に取り組んでいきたいと思っています。

—やりたいことは—

夫婦とも穴生学舎で学んでいる英会話をブラッシュアップして、オーストラリア旅行に行くことを目指しています。

JICA研修

員との交流会で、英語でよりうまくコミュニケーションが取れるようにもなりたいですね。

聞き手(森山 幸恵)

広告



山内 税 理 士 事 務 所 株式会社 北九州会計事務所

税 理 士 山 内 英 樹

〒802-0014 北九州市小倉北区砂津1-3-18 TEL 093-541-0035 FAX 093-541-0038

We LOVE なおみ姫

10月8日(日)にボランティア協会に深く関わりのあった岩井菜穂美さんを偲ぶ会「We LOVE なおみ姫」が開催されました。



岩井さんは障害福祉の世界で芸術文化活動分野の先駆者であり第一線で活躍してきた重度障害の女性です。また彼女の文才は小学生の頃からの作詞に始まり、関わりを持った団体の機関紙には、その時その時に合わせた障害者問題を取り上げて鋭く分かりやすくウィットに富んだ文章で連載したり、大手

新聞でのコラムを執筆したりと、障害福祉についての啓発活動にも貢献してきました。

ボランティア協会でも会報紙「でんしょ鳩」以外に北九州市の受託事業である障害福祉情報センター事業の機関紙「ひこうせん未来」に「姫のたわごと」というコラムの執筆を続けていました。

そんな岩井さんが、昨年末に突然亡くなられたことはあまり知られていないことでした。今年に入ってコロナの状況をみながら少人数でも良いので「わたぼうしコンサートをまたやりたい」という彼女の希望を実現するために「We LOVE なおみ姫」発起人会が準備を進めてきました。

当日は写真や関わった方々のコメントを挟みながら岩井さんの生涯を振り返ったり、奈良や北九州から「歌うボランティア わたぼうし」の皆さんも駆けつけ、ミニコンサートが行われました。



今年の3月に発足していた「We LOVE なおみ姫」発起人会より、解散するにあたり、運営資金の残金を「菜穂美さんが活動してきた北九州市障害福祉ボランティア協会へ」とご寄付いただきました。

今年3月に発足していた「We LOVE なおみ姫」発起人会より、解散するにあたり、運営資金の残金を「菜穂美さんが活動してきた北九州市障害福祉ボランティア協会へ」とご寄付いただきました。ボランティア協会では発起人会の活動を後方支援しながら、岩井さんが幅広く色々な方たちと繋がっていた魅力的な人だったと改めて知ることになりました。

発起人会の皆様にお礼申し上げますとともに、岩井菜穂美さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

「ねえ君」

ねえ君 友達にならないかい
胸に溢れる喜び
分かち合うため
今初めて出会ったばかりの
僕達だけ
この同じ街に生きている
それだけでお互いの心は
一つになるはず
だからねえ君 ねえ君 ねえ君
友達になろうよ

ねえ君 一緒に歩かないかい
新しい何かを 見つけるため
いまでは見知らぬ同士の
僕達だけ
この同じ時に生きている
それだけで見えない壁は
乗り越えられるはず

だからねえ君 ねえ君 ねえ君
一緒に歩こうよ
だからねえ君 ねえ君 ねえ君
友達になろうよ

※この曲はボランティア協会の自主製作映画『通れば通り道』の挿入歌として菜穂美さんが作詞したものです。

【広告】 明るく・元気に・前向きに! 困ったときはお互い様

業務内容

安全標識作成、資料の電子化、データ処理、印刷各種、各種コピー、大型カラー出力、印刷物(ポスター、記念誌等)の企画・デザイン

私たちは一人ひとりが生き活きと働ける職場づくりを実現します。



三菱ケミカル(株)100%出資特例子会社

化成フロンティアサービス株式会社

〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石1-1

TEL080-2366-5775 FAX093-643-4393

<https://www.kfs-mc.co.jp/>



